

(令和7年度時点)

国立大学法人お茶の水女子大学内部質保証における
自己点検・評価結果を踏まえた要改善事項への対応状況について

○対応状況一覧

分野	計画の 実施主体	要改善事項		改善実施計画		対応実績		計画の 進捗状況
		年月	内容	年月	内容	年月	内容	
入学者 選抜	入試課	R7.10	評価項目に係る観点が「学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立っていること」であるところ、根拠資料「Ⅱ-3-5 新入生アンケート結果報告（令和6年度）」及び「Ⅱ-3-6 新フンボルト入試入学生学年末アンケート（令和3年～令和6年度入学生）」について、アンケート結果を適切な組織で検証し、入学者選抜の改善に活用しているかどうかを資料から確認することができない。【入試 R7】 （「令和6年度 国立大学法人お	R7.12	新入生アンケート活用については、前年度も指摘を受けており、各種部会で結果を共有する旨、報告していたとおり、第2回学部入試実施部会にて報告し、各学部教授会でも報告願った。 新フンボルト入試入学者へのアンケートについては、新フンボルト入試専門部会合同部会を開催してアンケート結果を報告し、今後のアンケートの実施方法や活用法について審議を行った。			

分野	計画の 実施主体	要改善事項		改善実施計画		対応実績		計画の 進捗状況
		年月	内容	年月	内容	年月	内容	
			茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価報告書」)					
入学者 選抜	入試課	R6.7	プレゼминаール アンケート結果、図書館入試アンケート結果、新入生アンケート結果については、関係者間での共有や分析結果の検証（過年度との比較や入試種別間での比較等）が実施されたことが資料から確認できなかったことから、学生の受入状況を検証する組織及び、方法が確認できる資料や、学生の受入状況を検証し、入学者選抜の改善を反映させたことを示す具体的事例を提示することができていない。【入試 R6①】 （「令和5年度 国立大学法人お茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価報告書」）	R6.12	令和6年度プレゼминаール以降に実施されるアンケートの結果を学部入試実施部会や新フンボルト入試専門部会にて共有し、入学者選抜方法改善に向けた議論を行うこととする。 （「令和5年度国立大学法人お茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価の改善策及び実施計画について」）	R7.6	10月24日開催の第5回新フンボルト入試専門部会文系部会にアンケート結果を報告して議論した。プレゼминаールの実施にあたって文系は入試体制で臨む必要があるが、理系はオープンなイベントとして実施しているので、運営方法も分けるべきとの提案があった。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他（ ）
				R7.6	令和7年度プレゼминаールでは、理系セミナー運営は簡略方法で実施する予定。			
入学者 選抜	入試課	R6.7	大学院博士後期課程の入学者数について、過去5年間での入学定員に対する実入学者の割合	R6.12	改善方策検討のため、大学院博士後期課程への進学について、本学在學生にアンケート調	R7.6	次世代研究者挑戦的研究プログラム（Spring 事業）に採択されたので、計画どおりに博士後	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中

分野	計画の 実施主体	要改善事項		改善実施計画		対応実績		計画の 進捗状況
		年月	内容	年月	内容	年月	内容	
			<p>の平均が64%※であり、入学定員を大幅に下回る状況（70%未満）にある。【入試 R6②】</p> <p>※ 令和6年度における秋季入学者は評価実施時点で不明のため、これを除いた数値。</p> <p>（「令和5年度 国立大学法人お茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価報告書」）</p>		<p>査を行ったところ、学位取得後の進路と学費等の経済面が障害となっていることが明らかとなった。</p> <p>については、博士学位取得者は大学、研究機関等への就職を目指す者が多かったが、民間企業も視野に入れるよう、入学時から指導していくこと、科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラムへ応募し、博士後期課程学生への経済支援を行っていくこと、博士前期課程進学者を増やしていくこと、を行っていくこととした。あわせて、社会から要請される人材を育成していくため、専攻間の定員移動も進めていくこととした。</p> <p>（「令和5年度国立大学法人お茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価の改善策及び実施計画について」）</p>		<p>期課程学生への経済支援を行っていくとともに、同事業で実施するキャリア開発プログラムを実施することで従来のキャリア支援をより充実させ、アカデミック分野以外（民間企業等）への就職支援を行っていく。</p> <p>また、大学・高専機能強化支援事業 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に採択されたので、博士後期課程の他専攻の一部の定員を理学専攻へ移動した。</p> <p>なお、令和6年度の入学者選抜に関する自己点検・評価において、過去5年間での入学定員に対する実入学者の割合の平均は、63%となり、引き続き入学定員を大幅に下回る状況となった。</p>	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他（ ）

分野	計画の 実施主体	要改善事項		改善実施計画		対応実績		計画の 進捗状況
		年月	内容	年月	内容	年月	内容	
				R7.6	引き続き、次世代研究者挑戦的研究プログラム(Spring事業)による博士後期課程学生への経済支援やキャリア開発プログラムを実施するとともに、大学・高専機能強化支援事業による専攻間の定員移動が充足率にどのような影響を与えるかについて注視していくこととした。			
教育	学務課	R6.7	「国立大学法人お茶の水女子大学における内部質保証に関する基本方針」第6条第1項において定められる必要な調査は、「卒業(修了)生アンケート」となっており、定量的な調査の実施及びその活用を求めているが、該当する調査資料として提出があった「卒業(修了)生調査(質的調査)報告」は、調査対象者を絞った質的調査であり、適切な調査を実施できていない。 【教育 R6①】 「令和5年度「教育」に関する	R6.12	令和5年度に学生・キャリア支援センター長名で実施した「卒業(修了)生調査(質的調査)報告」は、定量的な調査ではなく、指摘のとおり適切な調査ではなかったと認識する。 本学の「教育」に関する意見を聴取する機会であるのに、実施組織が学生・キャリア支援センターであることが、指摘のような事態を招いたと考え、調査の実施組織を「学生・キャリア支援センター」から「学務課、学生・キャリア支援課及び教学IR・教育開発・学修支援センター」に	R7.6	令和6年8月に、令和4年3月に卒業・修了した学生への卒業後3年目定量的調査を実施した。 この内容を令和7年度中の学生・キャリア支援センター運営会議と学務部会に報告し、教育改革のPDCAサイクルに活用していく予定である。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

分野	計画の 実施主体	要改善事項		改善実施計画		対応実績		計画の 進捗状況
		年月	内容	年月	内容	年月	内容	
			内部質保証における改善が必要と認められる事項について)		変更することとする。 (「令和5年度「教育」に関する内部質保証における改善策及び実施計画について)」			
				R7.6	令和6年8月に実施した「卒業(修了)生アンケート」の結果を令和7年度中に学生・キャリア支援センター運営会議と学務部会に報告し、教育改革のPDCAサイクルに活用する。			